

オガサワラシジミの概要

1. 分類

チョウ目 シジミチョウ科
オガサワラシジミ
Celastrina ogasawaraensis
絶滅危惧 I A 類（環境省レッドリスト 2012）



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・ 小型（全長 12～15mm 程度）のシジミチョウで、オスのほうがメスよりやや大きい。オスの羽表面は暗青色で外縁部が黒い。メスの羽表面は暗青色～黒色。裏面は灰白色で後ろ羽は青緑色を帯び、小さな黒い斑紋がまばらにある。
- ・ 年に数回孵化し、冬期の個体数が少ないが、年間を通じて見ることができる。
- ・ 生息地は自然性の高い森林であり、成虫の活動時間については、朝から夕方までの日が差している時間帯。幼虫の餌はクマツヅラ科のオオバシマムラサキ、クスノキ科のテリハコブガシ、コブガシなど。
- ・ 移動性が高い。
- ・ 日本固有種

3. 分布状況

小笠原諸島、父島列島の弟島・兄島・父島、母島列島の母島・姉島で分布が記録されているが、近年確認できているのは母島のみ（日本固有種）。

4. 現在の生息個体数

かつては父島、母島に多数生息していたが、父島では 1980 年代前半に激減し、1992 年以降、生息が確認されていない。母島でも少数が確認されるのみ。

5. 生息を脅かす要因

外来種のグリーンアノールによる捕食が圧迫要因として考えられるほか、台風による被害や開発による影響、アカギ等外来植物の侵入による植生の変化、コレクターによる捕獲圧等も減少要因としての可能性が指摘されている。

6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・ 平成 20 年国内希少野生動植物種に指定、平成 21 年保護増殖事業計画(文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省)策定
- ・ 母島の新夕日ヶ丘においてグリーンアノールの侵入を防ぐ保護柵を設置。平成 23 年 5 月、はじめて羽化を直接確認。
- ・ 多摩動物公園にて、オガサワラシジミの人工繁殖の技術開発を実施中

7. 他法令等による保護の状況

1969 年に国の天然記念物に指定。